

やまなみ



御船町立御船中学校 学校便り
令和3年 9月号

友創自
愛造律
訓校

変わらないための新たな試み

校長 作田潤一

本校は校訓に『自律、創造、友愛』（自律：自ら鍛える生徒、創造：自ら学ぶ生徒、友愛：自ら生きる生徒）を掲げています。

新型コロナウイルス感染の終息が見えない厳しい状況が続いておりますが、そんな時にこそ、この校訓の思いを大切に日々の教育を重ねていきたいと考えています。今回の新型コロナウイルスの影響は、今まで以上に人・もの・文化などの交流がいかに大切なものであるかということを考える機会となりました。

AIに代表されるSociety 5.0の時代を迎え、子どもたちには「生き抜く力」と「変化に対応できる力」が求められます。社会の動向や真理をしっかりと見つめ、ピンチをチャンスに転ずる発想や行動力も必要となります。

変わらずに残るためには変わらなければならない

これは、イタリアの映画監督ルキノ・ヴィスコンティの言葉です。

御船中学校は、生徒に生きる力を育む学校であり続けるために、昨年度からいくつかの新たな試みを始めています。コロナ禍の中で出来ることに知恵を絞っているところです。

その一つが、今年度動き出した“御船輝き学習”です。町内で活躍されている方に協力をお願いし、自身のこれまでの人生や希望について語っていただくことができました。子どもたちが自己の生き方を見つめる貴重な機会になっています。

御船輝き学習

総合的な学習の時間では、今年度から御船輝き学習（MVP）に取り組めます。「御船町で活躍する人の生き方に学び、ふるさとに誇りを持ち、自分を見つめ、互いのよさを活かしながら積極的に社会に参画しようとする態度を身につけること」を目標として、御船町で活躍する方に講話をしていただきました。

○1年生テーマ 「御船町の食・農・環境保全」

竹下紀一さん

ふるさとで働こうと決意した理由や水越地区の「蛍を見る会」を立ち上げた経緯を話されました。「自分が育った地域に貢献できるような人になってほしい。」と語られました。



渡邊ヒデカズさん

学生時代から吉無田高原に蝸窯をひらくまでを話されたあと、「人との出会いやつながりがなければ今の自分はない。目標を持つことは大切だと感じた。」と語られました。



緒方健さん

「農業は大切な職業であることを感じてくれたらうれしい。」「日本にはありとあらゆる災害がある。何か起こったときにはみんなが助け合うことが大切だ。」と語られました。



藤崎清美さん

ジャム作りが好きで御船町にジャム店をオープンしたことを話されました。そして、「やりたいことがあったら一歩も曲げないことが大切だ。人と関わることがやりがいだ。」と語られ、生徒にはジャムのプレゼントがありました。



○2年生テーマ 「御船町の産業、文化・伝統芸能」

沖田昌史さん

御船城の歴史や城山に伝わる伝説について説明されました。そして、「御船は恐竜の化石も出るし、重要文化財も多くある。おいしい水もある。食べ物もおいしい。人もとても優しい。御船を大好きになってほしい。」と語られました。



○3年生テーマ 「御船町の安全・暮らし・健康」

緒方良成さん

昭和63年の御船町豪雨災害への対応や当時の状況を写真で紹介されました。「自分がなんとかしないとという思いだった。安全に暮らしていけるように、防災への意識を高くもって生活してほしい。」と話されました。



二学期のための環境整備

教室の背面黒板を職員作業でリニューアルしました。痛んでいた背面黒板のテープを剥がし、黒板用のペンキをきれいに塗装し、時間割の枠を作成しました。背面黒板を三分割に整理しています。左側は宿題や提出物、真ん中は時間割、右側はお知らせを記入するスペースとなっています。色合いなども工夫し、誰もが見やすいUD（ユニバーサルデザイン）となっています。



今夏は親子美化作業が新型コロナまん延防止のため実施できませんでしたが、8月26日の夕方、PTA 体育・環境整備委員の保護者のみなさんに校内の除草作業を行っていただきました。職員でも除草作業等を機会を見つけて行い、すっきりとした環境で、二学期を気持ちよく迎えられました。